

# グリーンニュース 第47号

発行年月日 平成 23年 6月 25日  
発行責任者 群馬県環境アドバイザー連絡協議会  
代表 鈴木 克彬

環境アドバイザー重点行動テーマ

## 行動する環境アドバイザー

・・・研修・情報交換の場を広く・・・



桐生市の郊外に聳える鳴神山（980m）の山頂近くの保護区域に咲いています。日本のサクラソウの在来種ですが、乱獲（盗掘）で減少し僅かな保護区域に地元の努力で辛うじて生息しています。日本の在来種のサクラソウとしてはこのほか県内に桐生市新里町の日本サクラソウ、袈裟丸山のユキワリソウ、山間に自生するクリンソウなどがありますが、いずれも絶滅の危機に瀕しており、色々な団体が保護活動に取り組んでいます。

（広報部会副部長 田中 和夫）

21年度4月より、第8期県環境アドバイザー登録者（登録期間：平成21年4月1日～平成24年3月31日）は、平成23年6月9日現在、309名の方の登録をいただいております。各地域で活躍されています。

本年度も引き続き、環境アドバイザー事業にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

県では随時、第8期の環境アドバイザーを募集しています。周りの方にもこの制度についてお話いただき、環境活動に取り組んでいただける方々に紹介していただければ幸いです。



携帯でサポセンブログを



### 環境政策課より



#### 1. 人事異動のお知らせ

環境サポートセンターで勤務されていた真砂専門員が退職されました。  
環境政策課 牧田主事が異動になりました。

真砂専門員の後任は、儘田（ままだ）専門員です。  
牧田主事の後任は、松村主任です。

#### 2. 緑のカーテン計画

環境政策課では、節電の方法として西洋朝顔「ヘブンリーブルー」による「緑のカーテン」計画を進めて来ました。

5月17日(火)午前10時、イオンモール太田(9人)

5月24日(火)午前10時、イオンモール高崎(14人)

5月31日(火)午前10時、けやきウォーク前橋(11人)

上記3カ所において、環境アドバイザーの協力により一回に1000件、合計3000件(12,000粒)の配布の協力をいただきました。



←高崎にて

前橋にて→



登録していただいている環境アドバイザーの方にも6月初旬にお手元に届くよう配布させていただいております。その後の成長はいかがでしょうか……。

## 『今、私が思う事』

3月11日（金曜日）『午後2時46分18秒日本の三陸沖で、マグニチュード9.0（暫定値）大地震が起こりさらに津波・火災・福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質漏れや大規模停電などが発生し、東北地方を中心とした甚大な一次被害のみならず、日本全国および世界に経済的な二次被害をもたらしている。』昔は（昭和10年以降）怖いものの順として地震・雷・火事・親父といわれていた。今回の東北大震災は、日本有史以来の大震災である。この大震災に被災されたご家族の皆様方には心よりお見舞い申し上げます。宮城県石巻市立大川小学校の教職員・児童の方々が亡くなられたことは大変悲しく、残念でなりません。残された女子児童が自衛隊員に渡した手紙が各隊員の心の支えになっているということをインターネットのホームページで拝読しました。人や建物や車などが地震で壊され、さらに津波で流され、田畑や海が放射能で汚染されそれは大変な事です。私達日本人は、心を一つにして、東北・関東大震災を復興させなくてはなりません。私達に取り組めることは、募金活動。被災地域で物を消費する、必要な物資を送る、被災地域のボランティア活動等色々な取り組みがあります。また、被災地に観光に行ってお金を消費してくる等。5月に、私達が福島県境の温泉地を訪れたら温泉街の方々に感謝されました。

話は変わりますが、原子力発電所の事故のため、電力が不足してしまったので、東京電力による計画停電が短期間はじまった。このことで私達の日常の生活リズムが変わっていった。食事の時間帯に懸かるとロウソクの灯りで食事をし、緊急時の備えのために生活用品の買出しを特に水、食料品の一部や電池などはどこのお店でも品切れ状態。また燃料不足のためにガソリンスタンドはガソリンを給油する人々の列でパニック。日々の生活が大変な事態になった。被災地ではプールの水を濾して飲んでる人々の光景も見られた。その水はどんどん腐っていく。高崎の小・中学校では、NPO法人EM普及協会の支援でプールの浄化活動が始まった。玉村町の汚水処理場では、好気性菌で水の浄化をしている。東北の被災地では東北EM普及協会から支援してと呼びかけがあった。家の中がヘドロで、海水の生臭い臭い、かび。EM活性液はヘドロを溶かし臭いを分解・処理をした。

各地が原発事故のため放射能汚染にさらされその対策が遅れて放射能が多く拡散した。コンビニでおにぎりを買った時、温めると電子レンジでチンすることによってマイクロ波（弱い放射線）が食品に入り食べてしまう。私達は、自然環境から1～10mmシーベルトの放射線を浴びて生活している。一番怖いことは放射性物質を吸い込むこと内部被爆である。その主なものとして放射性ヨウ素・セシウムなどがあるが、セシウムは半減期が30年なので怖い。成長ざかりの児童・生徒の置かれている環境は特に気をつけたい。環境アドバイザーは環境に対する専門性を高めなくてはなりません。環境分野に新しく原子力発電事故による放射能汚染。その汚染から児童・生徒が自らを守るための学習内容である。今後、環境アドバイザーには、原子力教育の研修が、必要な学習課題であると思ふ。

（副代表 青木 純郎）

## 今年度のごみ部会の計画

3月11日に発生した東日本大震災の被災地に立ってみると、この場所を復興していくには全ての事について、今までの考え方・システムの在り方・価値観などでは到底難しいのではないかという思いを強く感じました。

それは環境問題対策へも大きな転換を迫られているのかも知れません。

原発の問題からは今後のエネルギー政策や節電のありかたが、破壊された自然環境をどのように修復していくかということが、超大に発生した瓦礫などのゴミはどうしたらよいのかなど、今まで何となく“やっているつもり”になっている環境問題対策も根本から見直すことを問われているような気がします。

さて今年度のごみ部会活動計画は、年度最初の会議において外へ出て現地を確認し知見を拡げていくことを活動の基本としていくこととしました。

その手始めとして6月に「彩の国資源循環工場」より3社を見学し、最新のリサイクル事業を学びます。

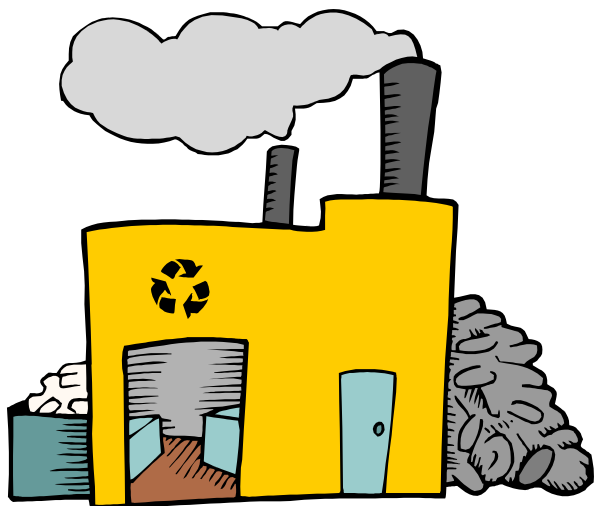
またレジ袋無料廃止中止の検討と合わせ「新マイ・バッグ・キャンペーン」を県と相談しながら進めていきたいと考えています。これは前回までのキャンペーンで配布された“マイ・バッグをもっと活用しよう”との主旨で展開しようとするものです。

更に前年度にも実施した「事例発表会」についても11月頃を目途に開催準備を進めていきたいと思えます。

ごみ部会としては、これらのことに関心を持つアドバイザーの皆さんには積極的なご参加をお願いしたいと思います。

本年度も宜しくお願い致します。

(ごみ部会部会長 須永 徹)



## 専門部会

### 進む小水力発電の取り組み



県主催による小水力発電の会合に参加する機会がありましたので報告します。

小水力発電とは、農業用水や砂防ダムなど小さな流れを利用し発電する仕組みで、部会でも関心を持ち、4年前、見学会や勉強会を実施してきたところです。その頃は県内の小水力発電(主にマイクロ発電)の設置箇所は10箇所位でした。県が積極的に進めた経緯もあり、今では実験地を含め30箇所とかなり増加しました。ただ、設置された箇所は水利権の確保が容易で、助成金や技術指導を得やすい自治体为中心であります。これが太陽光発電のように個人や小規模でも取り組めるには、今後も水利権取得の簡素化、発電機や建設コストの削減など様々な課題があります。ただ、民間企業の導入も数カ所出てきており、また新たな形態として、地域住民が環境やエネルギー問題を勉強しながら、計画から建設、施設の維持まで行政と協働で運営している例も出てきました(みなかみ町)

みなかみ町に幾つもあるダムの総発電量が190万kwということです、原発1箇所が約100万kwを考えると、改めて原発の大きさを感じますが、その巨大さゆえにいったん事故が起これば人類に計り知れない被害を与えることを考えると、例え少量でも環境に負荷を与えない自然エネルギーを身近なところから数多く設置していかなければと思います。

(温暖化・エネルギー部会部会長 小川仁司)

## 専門部会

### 「環境アドバイザー各地で大活躍」

そのⅠ=5月10日広報部会47号会議後、環境サポートセンターより県でこの夏の節電対策キャンペーンとして「緑のカーテン」を県民に取り組んでいただくため朝顔の種の袋詰め作業の協力依頼があり、即座に行動することにした。朝顔の種(4粒)を一袋とし、高崎、前橋、桐生、安中の各地区に2千袋ずつ手分けして、活動の輪を広げ20日をめどに県に届けることにした。また県内3カ所での配布活動の手伝いにも参加した。

そのⅡ=5月29日、今年も「アースデーin 桐生 2011」群大桐生キャンパスで雨の中実施され「地球環境を考えよう」をテーマに様々な催しが行われました。

県からも動く環境教室、エコムーブ号も参加し、環境学習サポーターを始め、各部会の皆さんや地元桐生・みどり市、館林など多数のサポーターやアドバイザーがそれぞれの持ち場で終日活躍されました。

そのⅢ=4月20日付けにてお知らせ致しました通り、国連の定めた「2011年国際森林年、日本の森を元気に」の活動として5月29日台風の余波に少々悩まされましたが、無事、高山村共有林再生作業が行われました。

現地の方も今回は若者達が参加され、私達も遠路より参加の熱心な仲間達に背中を押されるように、くずのツル切りと根元切り作業を約1,500平方メートル終えることができました。参加者は長野原町、渋川市、前橋市、高崎市、太田市などからで来春の植樹(高山村役場)が楽しみになりました。

今後も地元の皆さまと親交を大切にしながら「日本の森を元気に」の活動を続けて行くつもりです。

(広報部会 宮崎 亮二)

## 専門部会

### 「群馬のサイクリングロードマップの紹介」



群馬県の世帯あたりマイカー保有数は約1.8台と全国でもトップクラスです。

この対極に大都市圏での自転車通勤ブームがあり、「自転車ツーキニスト」を先日のNHKテレビでも特集していたようです。私も東京まで新幹線通勤をしていた数年間は高崎駅までの約4kmを自転車で通っていました。

自転車は自動車と比べて省エネ、体力増強など良いことづくめですが、独立した自転車専用道でない場合は、自動車、歩行者との関係で安全面での問題があります。

県庁2階の県民センターに行くと無料で各地域のサイクリングロードマップがもらえます。ここに掲載されているコースは上記の危険をできるだけ避けて設定されています。中には群馬県庁から東京ディズニーランドまでの150kmコースなども紹介されておりチャレンジ心をくすぐります。

20km以内のコースならママチャリ&子供用自転車でも充分行けるし、2万円程度で買えるポータブルカーナビを付ければ長距離も興味津々です。

さあ、出かけませんか！

ランニングが趣味の私はこれらのコースを走って楽しみたいと思っています。

(広報部会副会長 田中 和夫)



## 地域トピックス

### 「エコドライブ」と「うちエコ診断」

私の環境活動は、「環境カウンセラズぐんま」と「群馬県エコドライブ普及推進協議会」の両団体の会長として、また「環境GS」の推進員、「省エネルギー普及指導員」、「うちエコ診断」の診断員として県内全域で活動を行っています。また、エコアクション 21 の審査人としての活動は県内のみならず全国展開をしています。この中で「群馬県エコドライブ普及推進協議会」と「うちエコ診断」の活動について紹介します。

#### ①群馬県エコドライブ普及推進協議会

群馬県でのエコドライブの普及推進や情報提供を行います。前年度は「エコドライブセミナー」と「グリーンエコフェスティバル」を開催しました。現在自動車の燃費管理ソフトを作成中で、今年度はセミナーとフェスティバル以外にこれを利用した事業所参加によるエコドライブマネジメント事業を行う予定です。

<http://gunmaken-ecodrive.com/>

#### ②うちエコ診断

家庭からのCO<sub>2</sub>発生の抑制や省エネの診断を行います。今年度は電力需要のひっ迫から、夏の電気の使用量削減の的を絞った診断を行います。特にサプライチェーンの従業員の家庭については、事業所へ訪問して診断を行う予定です。

<http://www.gccca.jp/>

以上、私の活動の一部を紹介しましたが、アドバイザーの皆様もぜひ「エコドライブ」と「うちエコ診断」を実施してみてもはいかがでしょうか。

渋川地域世話役 佐藤 孝史

## 東日本大震災のボランティアに行つて

1ヶ月近くに成らんとして、石巻にボランティアセンターが建ち上がった。災害が広域過ぎた事、大津波で行方不明者が多過ぎて遺体捜査すら目処が付かず、組織的に動ける自衛隊・警察・地元消防団の力を借りるしか行政にも手立てが無かつたらしい。石巻専修大学のキャンパスに建ち上がったボランティアセンターと連絡を取って仲間と二人で出かけた。本県でさえ、屋根にブルーシートが乗っている家を見ながら石巻市に入る。センターで登録を済ませ、キャンパス内にテントを張る。全国各地から支援に駆け付けた車とテントで支援の輪を感じる。テントの間に煮炊きをし、洗濯物が干してある。支援者の生活と一様に疲労の顔を隠せない人々の集団に入る。午後の作業(ヘドロの排出)を終えてから市内を廻る。旧市街地は海に近いこともあって爪痕を見て、あ然とした。言葉すら出ない。原子爆弾が投下された広島の写真と同じである。建物は根こそぎ跡形も無く、所々に波に打ち寄せられた鉄クズの塊が残るだけである。津波により破壊された近くの工場から流れ出た燃料に火が付き町全体を焼き尽くしたと、山に逃げて九死に一生を得たと言う老婆が語っていた。津波は石巻湾に永く堆積していたヘドロを巻き上げ、黒い波となって旧市街地を襲い、何もかも残らずに牧山の麓に押し上げた。そこは、燃える物は全て無くなり鉄クズの山を大型重機が孤軍奮闘していた。水産加工センター地区では大きな船が波で港から数百メートルも運ばれて民宿村に残っている、民宿の屋根に観光船とおぼしき船が乗っている様は息を付くことさえ忘れさせる津波のパワーを見せつけていた。

ボランティアセンターでは朝8時から、その日の救援作業募集が始まる。被災者からの依頼を何人で何時間と判断して、センター前で募集をかける。コーディネートスタッフが人員を確認して、県外から支援バスに乗せて目的地に誘導する。現場近くの駐車場に用意してある、角スコ・一輪車・ヘドロ用袋のセットを持参して決められた民家に伺う。長グツ・ヘルメット・マスク・首から下げた認識証、スタイルは皆一様に元気がいい。ヘドロは家の内外と堆積し、既に異様な臭いを発している。ヘドロの他に、なぜこんな所までと思う、車が庭に入っている。大型物件は、重機要請となるが、新聞紙用の大型コイルは、水を吸って、持ち出せず、皆で小さくちぎって袋に入れ道路に積み上げる。畳・襖・家具を全て道路に積み上げる。県外からの支援ゴミ収集車が来ると、全員外に出て車に乗せるが、あつという間に山盛りとなり、次の車が来るまで道路を塞ぐこととなる。家の中は、自宅の思い出の品の他に波で運ばれた倒壊家屋の物まで散乱し、ヘドロに埋もれ、汚れを取り除き、畳を取っても、床下にも積っていた。新市街地の新興住宅地でさえ2メートルの津波が車を運びながら押し寄せたとのことであった。夕日が西に傾く頃「終わりました・・・」の言葉を残し皆、何とか出来たという満足感と被災者に手を出してやれたという己の充実感で目に涙を浮かべる者も居たが回収のバスを待った。

ボランティアとは同情の心を体で、汗で表現する、人間にしか出来ない崇高な行動、そのものを言うのであって未だ被災地のほんの一部しか手が付いていないが、生活再建が始まるまで長い支援が必要と感じた。博多から来たと言う、ラーメン屋のオッサン、「以前に全国の人からの支援を受けたので、その恩返しですよ・・・」と日焼けした笑顔には、人間としてのあたりまえの事をしているだけ、と言う慈悲の心を感じ私としても充実した3日間となった。

(安中地域 鬼形明房)

数年前、県の環境政策課を通して中之条高校文化祭の環境問題の発表を見に行きました。農業土壌の改革、小水力発電、サイカチの木のさやを、調理実習後の皿洗いに使った話でした。いつも皿洗い洗剤で湿疹が出来ていた生徒が、手がきれいになったそうです。サイカチを調べてみると落葉高木、川原、山野に多く自生、若葉は食用、材は器具用、さやは石鹼の代用、実は漢方薬とありました。

「さいかちの実」

私は樹木を植えた経験がないので、皆目見当がつきませんが、川辺にサイカチの木が茂っていたら良いなと思います。

洗剤は石油や植物油脂を使っています。資源や食料自給率の低い日本ではうってつけです。CO<sub>2</sub>削減や観光とまでは行かなくとも、大木は木陰を作り人々を癒します。

サイカチは大木になるから、サヤもたくさん実るでしょう。

中之条高校の生徒さん達の想いを、後世の人達に残せたらと思っています。そしてこれは私の夢です。

(吾妻地域世話役 唐沢 由喜子)



## 各部会・地域・活動の予定

(情報・話題・連絡・お知らせ etc. )

部会	内容	月/日	時間	(担当)問い合わせ先
自然環境	部会(前橋プラザ元気 21)	7月16日(土)	10:00-12:00	宮崎(080-5019-3820)
広報	GN48号編集会議 (県庁16階県民サロン)	8月4日(木)	10:00-12:00	原田(027-344-6088)

次回(48号) 2011年9月発行予定 (原稿〆切8月25日)